

(1) 学校教育活動全体を通しての道徳教育 ～ユニットで学びをつなげる～

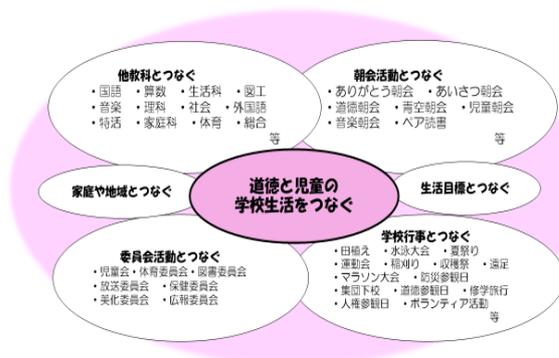
四万十市立東中筋小学校
弘瀬 栄美

1. はじめに

本校では、平成30年度からの3年間、高知県教育委員会指定「道徳教育推進拠点校事業」を受け、道徳教育は道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うという基本的な考えに基づくとともに、道徳的諸価値についての理解をもとに、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める授業を目指し、①指導計画の充実、②「考え、議論する道徳」の授業研究、③評価の研究、④家庭・地域と連携した道徳教育の推進の4点について重点的に研究してきた。1年目は特に、「考え議論する道徳」を目指し授業改善と評価についての研究を重点的に行った。2年目には、研究の柱の一つとして授業のユニット化について取り組んだ。本校では、ユニットを「教材や道徳に関連した教育活動をまとまりとして捉え、道徳的価値をより重点的、効果的に深めていこうとするもの」と考え、道徳教育に取り入れている。この取り組みを通し、授業の連続性が生まれ道徳的価値について多面的、段階的に深めていくことに繋がったと考える。そして3年目にあたる今年度は、これまでの2年間の研究実践を踏まえ、学校教育活動全体を通じて行う道徳教育という原点に立ち返り、主体的に考え、対話する道徳科授業への更なる研究充実と、より俯瞰的に設定したユニットテーマに基づき、授業の重点化や深まりを図るとともに、特別活動や他教科との関連を図りながら、「ユニット化で児童の学びをつなげる」ということに挑戦してきた。ユニット化の取組としては、①ユニットで道徳と児童の学校生活をつなぐ、②ユニットで道徳科授業をつなぐ、という2点について取り組んだ。

2. ユニットで道徳と児童の学校生活をつなぐ

道徳科とつなげたい学校生活の場面はたくさんある。(右図参照) 全校のユニットテーマを設定することで、児童も教職員も道徳科の学びとつなげやすくなるのではないかと考えた。



(1) 別業(カリキュラム表)の活用

各学期に設けた「本校の重点指導項目」に基づき、学校全体のユニットを設定し、学校行事や生活目標、学級活動、道徳科以外の教科等と関連付けるようにした。

ユニットテーマがあることで、道徳科を中心にさまざまな教育活動を関連付けることができた。

- 共通の内容項目**
- 1 学期：善悪の判断、自立・自由と責任、希望と勇気・努力と強い意志
 - 2 学期：親切・思いやり
 - 3 学期：生命尊重、郷土愛

共通内容項目	4月	5月	6月	7月	8月・9月
学校行事等	春の遠足(友)	交通安全教室(生) 修学旅行(学)	防犯教室(生) 道徳学習(学)		運動会!
生活目標	元気の挨拶をしよう	決まりをよく考えて守ることに生活しよう	衛生や安全に気をつけよう	暑さのある生活をしよう	暑んで熱を帯びないように予防しよう
価値項目	礼儀	生命の尊厳	生命の尊厳	生命の尊厳	生命の尊厳
家庭や地域との連携	集団下校 家庭訪問 街頭指導	青少年を育てる会 道徳学習会 街頭指導	田植え 街頭指導	夏祭り 街頭指導	敬老会 街頭指導
ユニット目標	自分と向き合う				
道徳の時間	12 熱れた水【正義・誠実】(A2)	13 村をつくった【長十郎】(A2)	14 ぼんぼり【伝統と文化の継承、国や郷土を愛する態度】(C1)	15 ぼんぼり【伝統と文化の継承、国や郷土を愛する態度】(C1)	16 ぼんぼり【伝統と文化の継承、国や郷土を愛する態度】(C1)
学級活動	17 ぼんぼり【伝統と文化の継承、国や郷土を愛する態度】(C1)	18 ぼんぼり【伝統と文化の継承、国や郷土を愛する態度】(C1)	19 ぼんぼり【伝統と文化の継承、国や郷土を愛する態度】(C1)	20 ぼんぼり【伝統と文化の継承、国や郷土を愛する態度】(C1)	21 ぼんぼり【伝統と文化の継承、国や郷土を愛する態度】(C1)
国語科	22 ぼんぼり【伝統と文化の継承、国や郷土を愛する態度】(C1)	23 ぼんぼり【伝統と文化の継承、国や郷土を愛する態度】(C1)	24 ぼんぼり【伝統と文化の継承、国や郷土を愛する態度】(C1)	25 ぼんぼり【伝統と文化の継承、国や郷土を愛する態度】(C1)	26 ぼんぼり【伝統と文化の継承、国や郷土を愛する態度】(C1)

- 共通のユニットテーマ**
- 1 学期：自分と向き合う
 - 2 学期：仲間とともに
 - 3 学期：生命を大切に

学校行事、生活目標、学級活動、道徳以外の教科等と関連付けて作成

(2) さまざまな教育活動との関連

昨年度からの取組として、道徳科と他の教育活動を関連させた取組を工夫し、学校教育活動全体を通して道徳教育を行っている。共通のユニットテーマを設けたことで、道徳科を中心にさまざまな教育活動を関連付けることができた。

①道徳性を育てる教育活動（朝会との関連、他教科との関連、児童会活動、あいさつ運動、さまざまな体験活動、Q Uアンケート 等）

道徳朝会…各委員会や仲間づくり部会、授業づくり部会が、月ごとの価値項目と生活目標とを関連させ、発表をする集会。ユニットを設定したことで、それぞれの部会がよりユニットテーマを意識した内容になり、朝会後の感想からは児童の考えの深まりが感じられる。



②学校環境の整備（学級、校内、職員室での道徳の足跡 等）

道徳の足跡…道徳の時間の学びの足跡を、「自分を見つめて」「みんなと共に」「人と共に」「命を感じて」の4つの視点に分けて貼り意識付けするとともに、振り返りができるようにしている。ユニット化した授業では、3時間の振り返りを掲示し、価値の深まりが分かるようにしている。



③家庭・地域との連携（道徳参観日、親子道徳の日、高知の道徳の活用、アンケート 等）

親子道徳の日…「高知の道徳」を活用し、昨年度から取組を始めた。本校の課題や、ユニットテーマに関する価値と関連させるなどして、家庭を巻き込んだ道徳教育を進めている。保護者からのコメントは、道徳通信で知らせたり、道徳の広場に掲示したりして紹介している。このような取組を続けたことが、自尊感情の向上にもつながっている。



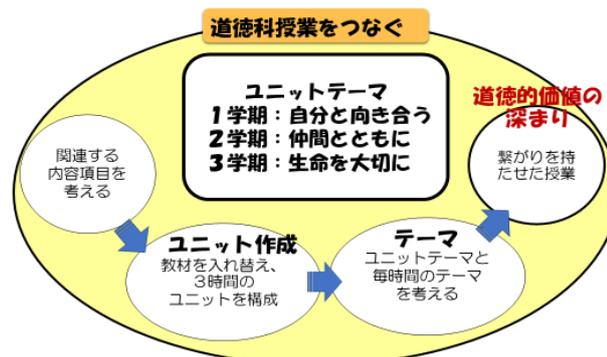
④小中連携（合同校内研、中学生による読み聞かせ、小中合同行事 等）

合同校内研…今年度はコロナでできなかったが、例年講師をお招きし、合同学習会を行っている。それ以外にも、それぞれの教材研究や授業研究に参加し合い、互いに連携し、深めている。



3. 道徳科授業をつなぐ

道徳科授業をつなぐため、学校全体のユニットテーマに基づき、関連する内容項目を考え、教材を入れ替えて、各学期1回、3時間のユニットを構成している。学年ごとに3時間を通したユニットテーマを設定し、毎時間のテーマを考え、つながりを持たせた授業を行うことで、道徳的価値が深まるよう道徳科授業をつなげている。



(1) テーマについて

本校では、児童が主体的に考えられるようにするため、毎時間の道徳科授業の中でテーマを設定し、児童に問題意識を持たせるようにしている。テーマを設定することで、1時間の授業の中で何について考えを深めるのか、ぶれないようにし、主題に迫ることができる。

(2) ユニットの取組〈6年生の1学期ユニットの取組より〉

1学期は「自分と向き合う」を学校全体のユニットテーマとした。6年生は「自由とは」を学年のテーマとし、「規則の尊重、善悪の判断・自立・自由と責任」の価値項目で3時間のユニットを構成し、児童の「自由」についての考えが深まるようにした。

6年生 1学期		
ユニットテーマ： 自分と向き合う		
＜自由とは＞		
①	自由という名の席	規則の尊重
②	頂上はすぐそこに	善悪の判断・自律・自由と責任
③	自由だからこそ	善悪の判断・自律・自由と責任
ユニットを組んだ意図	自由の意義を深く考えることを通して、自由とは自分勝手ではないことを知り、自由がもつ良さやそれに伴う責任の重みを考えることによって、自律的に判断し責任ある行動をする態度を育む。	

①1時間目「自由と言う名の席」

導入で、児童が普段から思っている「自由」について聞き、教材を通して考えた後、展開の最後でテーマである「自由とは」何かを考える中で、児童は自由の中にもルールやきまりが必要なことや、自由でも周りのことも考えないといけないことなどに気付いていった。



②2時間目「頂上はすぐそこに」

導入で、前時の「自由」についての考えを振り返った後、教材を通して考え、最後にもう一度「自由とは」どういうものかを考える中で、児童は自由と自分勝手は違うことなどに気付いていった。



③3時間目「自由だからこそ」

導入で、これまでの「自由」についての考えを振り返った後、1時間を通して「本当の自由」とは何かを考え、後半では3時間を統合して、「自由とは」どういうものかを深めていった。



このように、ユニットにして授業づくりに取り組むことで、導入や終末にも繋がりが生まれ、児童の道徳的価値の深まりへとつなげている。

(3) 道徳科授業の工夫

今年度、授業改善の一つとして「ひがなか道徳スタンダード」を作成した。導入で価値や資料への方向付けを行い、展開で考えを確かめたり深めたり広げたり、道徳的価値と自分との関わりについて考えを深めたりする中で、多面的・多角的に捉えたり、自分事として考えたりしながら、道徳的価値を深めるようにしている。これを基に、道徳科授業の工夫を行っている。

(4) ひがなか道徳スタンダード

項目	内容
1. 道徳的価値の理解	道徳的価値の理解を深め、その意義を認識する。
2. 道徳的価値の実践	道徳的価値を実践し、その意義を体感する。
3. 道徳的価値の発信	道徳的価値を発信し、その意義を共有する。
4. 道徳的価値の継承	道徳的価値を継承し、その意義を継承する。

①導入の工夫

導入では、家族や友達からの手紙を読んだり、鈴虫の音声を聞かせて興味付けを行ったり、ユニットを生かした導入などで、児童が考えたくなるような、また、考える必然性を感じられるような工夫をしている。

②資料提示の工夫

教材の内容がしっかり児童に伝わるよう、資料提示の仕方も工夫している。授業者がゆっくりはっきりと資料の中身が一読で分かるよう朗読したり、教科書は見せず、挿絵をテレビ画面に映しながら読むことでお話の世界に入り込ませたり、低学年ではペープサートで心情を考えやすくしたり、紙芝居にして読み聞かせすることで集中して聞くことができるようにしている。



③話し合いの工夫

各学年の実態に合わせ、話し合いの形も工夫している。一番身近なペアトークから、3～6人程度でのグルーptーク、学級全体での話し合い等、ねらいとする道徳的価値へつながらせるような話し合い活動を意識している。座席配置の工夫や、ホワイトボードや付箋等を使ってまとめるなど、思考を整理する方法も工夫している。また、ペアやグループでまず意見交換を行うことで、自信を持って発表することにもつながっている。友達の意見を聞き合い、自分の考えと比べながら聞くことで、多面的・多角的に考えられるような話し合い活動になるよう考えている。



〇〇さんの意見を聞かせて



グルーピングしながら…



私の考えと似てるな

④表現活動の工夫

役割演技や動作化、立場を変えて考えてみるなど、各学年の実態に合わせ、表現活動の工夫も行っている。



役割演技



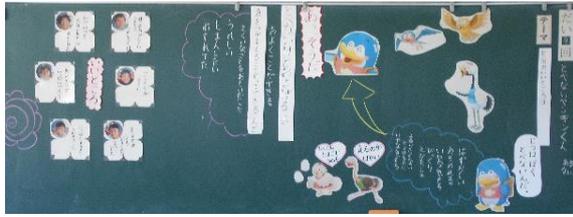
動作化



立場を変えて

⑤構造的な板書

その時間に学習したことが、黒板を見て振り返られるような板書を心掛けている。道徳的価値に迫るためにはどのような板書にすればよいか、事前研究の段階から考え、授業の中では児童の意見を大切に、考えが残るようにしている。



挿絵を動かし心情の変化を分かりやすくしたり、主題となる部分を板書の中央にし、考えたい価値を中心で強調したりすることもある。他にも、登場人物の立場の違いを明確にしたり、色を使って書き分けたりすることで対比や分類を明確にすると、視覚的に考えやすくなる。

挿絵を動かしながら心情の変化を分かりやすく

中心を強調した構造的な板書



立場の違いを明確にした板書



対比や分類をした板書

また、心の葛藤を表すのに心情メーターもよく使う。二つの色の大きさで心情の変化を表すものや、中心にいくほど関係が近づくようになっているもの、気持ちの大きさを表すものや、ネームカードで自分の立場を表したりするものなど、児童の実態に合わせ、心情メーターも色々な工夫をして活用している。

2つの色の大きさで表す



中心にいくほど
関係が近づく



気持ちの大きさを表す



自分の立場を表す



⑥ 問い返しや揺さぶり

児童の言葉が簡略化されているときには、「どうしてそう思うの?」「もう少し詳しく聞きたいな」などの問い返しをすることで、もっと具体的に言えるようにしたり、「おばあさんと、ぼくの気持ちは同じ?」「もし〇〇していなかったらどうだっただろう?」など、対比や仮定で考えさせることで児童の考えを深めさせたり、「本当にそれでいいのかな?」「でも、さっきまではちがったよね?」と揺さぶりをかけることで一旦立ち止まらせて考えを深めるなど、児童の思考を深め、つなげるうえで、問い返しや揺さぶりは非常に重要である。



⑦終末の工夫

授業の終末には、手紙を書いたり、読んだり、作文や日記の紹介をしたり、ワークシートに書いて交流したり、映像や格言等を活用したり、色々な工夫をすることで児童が道徳的価値について、自分を見つめながら考えをまとめたり深めたりできるようにしている。

4. おわりに

学校全体としてのユニットテーマを設定し、道徳朝会や委員会活動、月目標等とを関連付け啓発してきたことで、全校児童、全教職員の意識が揃い、学校教育活動全体での取組がつながり、より効果的、かつ重点的に進めることができ、児童の道徳性を育てることができた。また、ユニットでの授業を仕組んできたことで、児童がユニット以外の教材でもつながりを持たせて考えたり、内容項目同士をつなげて考えたりする姿が見られるようになり、児童自身の主体的な学びにつながってきた。

児童の道徳意識調査では、自尊感情（自分にはよいところがある）が課題であったが、3年間の取組により 60%から 88.2%と着実に向上しており、ユニットで学びをつなげながら、学校教育活動全体を通して道徳教育を行ってきたことが自尊感情の向上にもしっかりと結び付いていると感じている。

ユニット化の取組を続けてきた中では、価値項目の偏りが見られたり、ユニットの取組を全体でどうつなげていくかなど、新たな課題も見えてきた。また、来年度は複式学級ができることを見据え、今年度の取組を次年度へどうつなげていくか、全教職員で考えていかなければならない。

今後も全教職員が一丸となり、日々の実践に取り組みながら、伝え合い、認め合い、ともに高め合う児童の育成に取り組んでいきたい。